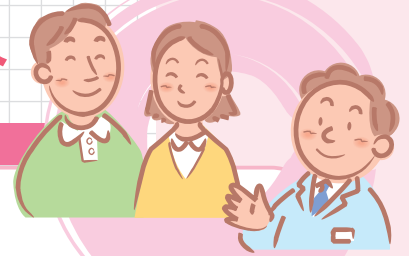


- 多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療のご紹介
- MR診断装置が増えました
- クオリティインディケーターのご紹介
- シリーズ「医療用語解説」第14回
- 準個室（2床室）の新設について
- イートインコーナーを開設しました

## 多血小板血漿を用いた 難治性皮膚潰瘍の治療のご紹介

皮膚科



皮膚に生じる潰瘍の原因には非常に多くの種類があります。また、それに伴って、治療の方法もいろいろあります。

今回ご紹介する「多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療」は、いま注目を集めている再生医療の一種です。とはいえ、それほど負担になるような治療ではありません。患者さんの血液を40ml程度採取し、その中から傷を治す成分をたくさん含んだ血小板を分離精製して、潰瘍部位にふりかけるといった簡単な治療です。採取した血小板は冷凍保存して週に1回患部に投与しますが、創部の管理が必要であるため、入院で治療を行うことになります。4回を1単位として、最大2単位まで、つまり早ければ4週間で退院できるということになります。

再生医療法により、分離精製する際に非常に高度な清潔環境が要求されるために、どこの医療施設でもできるものではありません。現在、厚生労働省が認めた先進医療として、全国で3施設しかこの治療が認可されていません。費用は、先進医療の部分が自費診療ですので、1単位あたり47,900円かかります。それ以外に、入院に関する費用（これは通常の保険診療となります）が必要です。



対象となる皮膚潰瘍は特に限定されていませんが、まず皮膚科外来を受診していただいて、この治療による効果が期待できるかどうか判断してから始めることになります。

### 全国で3施設

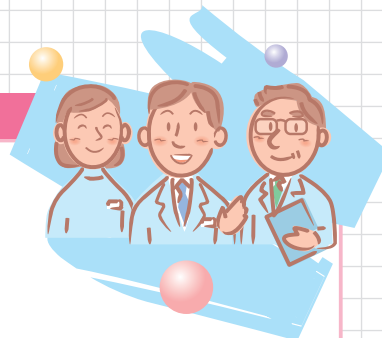


多血小板血漿療法は、従来の保存的療法では治癒しない糖尿病をはじめとした各種の難治性皮膚潰瘍に対する治療の提供を目的としています。

すでに、アメリカをはじめとした諸外国では実用化されており、多くの実績があります。

# MR診断装置が増えました

放射線部



平成28年度、MR装置の1台更新と1台増設が行われました(写真(上段))。近年のMR検査の臨床診断への要望は高く、更新前では、予約待ち期間は4週間が常態化しており、これを解決するため4台体制を実現しました。本稿の執筆現在、予約待ち期間が大幅に短縮されています。放射線部では、今後も、効率的かつ患者さんの安全に十分配慮し、全ての患者さんに高度な診断と個々に適した治療を受けていただけますように、日々の診療に貢献していきたくと考えています。

また、以前は、患者さんには狭いスペースで長時間お待ちいただきましたが、待合室も改装され、広々とゆったりとしたスペースで検査に備えていただけます。

保有装置は、3.0テスラ2台、1.5テスラ2台となり、撮像部位や疾患に応じた機種を選択した適正なMR検査が実現できます。

今回導入した装置では、肝エラストグラム(組織弾性映像法)(図1)、脂肪量、鉄沈着量の測定(肝ファットフラクションマップ(図2)、R2\*マップ(図3))で肝臓疾患の線維化の状態を可視化、診断の定量化が実現でき、肝疾患の早期発見を早期治療に繋げることが可能となりました。

MRを利用した脳血流検査は、全装置において、薬剤を用いることなく脳血流評価が可能となり、脳血管性病変の検出に大変有用な情報を提供してくれます(図4)。

その他にも、以前よりも多様なコントラストの画像を得ることができることや画像データの解析ソフトウェアの導入により、最新のMR情報の提供が実現できるようになりました。

一方で、条件付でMR検査が可能なデバイスの出現で検査の適応が拡大した反面、MR検査の安全性を確保するための問診や多くの確認行為が必要です。患者さんの安全のために医師と診療放射線技師が協力して確実な安全情報の収集を行っています。

当院では、これからも患者さん毎に最適な検査を提供できるようスタッフ一同協力していきます。

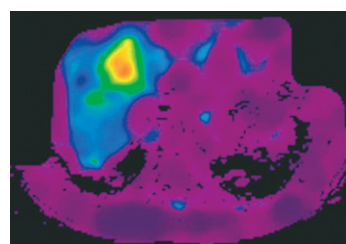


図1：肝臓エラストグラム

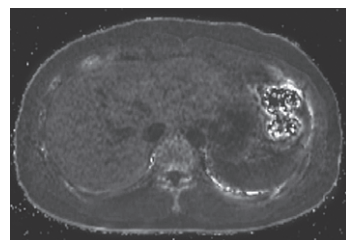


図2：肝臓ファットフラクションマップ

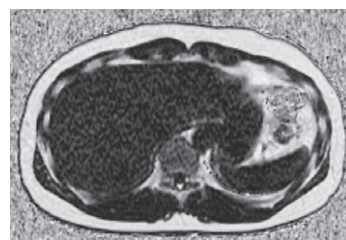


図3：肝臓R2\*(スター)マップ

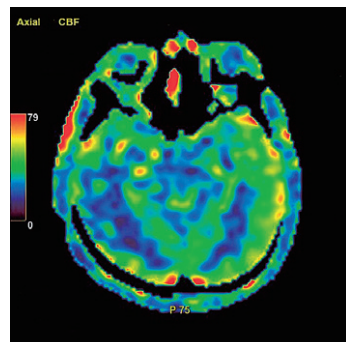
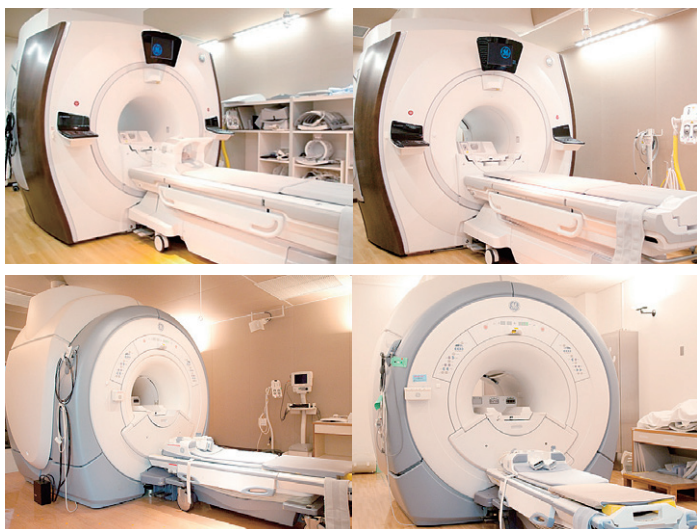


図4：非造影脳血流マップ



写真：当院のMR撮像装置ラインナップ  
(上段が平成28年12月稼働装置)



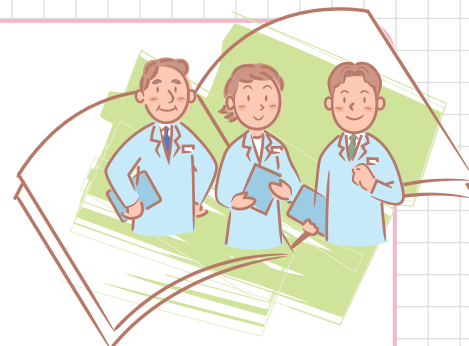
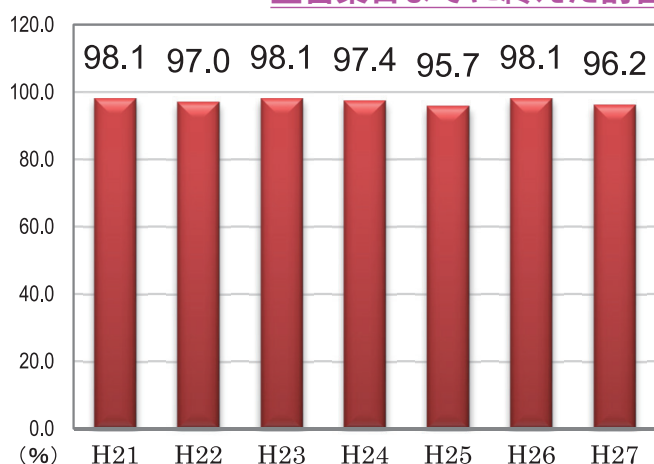
# クオリティインディケーター(QI)の

## ご紹介 ～放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合～

病院管理課経営企画室

当院では、医療の質と医療の活動度に関する実績を取りまとめ、「QI：医療の質についての指標」として、約60項目をホームページで公表しています。その中から、今回は「放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合」についてご紹介します。

### 放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合



CT・MRIは、診断・治療・経過観察等あらゆる診療行為において重要な役割を担っており、当院での実施件数も年々増加しています。

引き続き、放射線科医による読影を翌営業日までに100%終わらせるよう努めます。

## シリーズ「医療用語解説」第14回

### ～臨床研究の情報公開（臨床試験登録システム）～

臨床研究開発センター

臨床研究の目的や方法、研究対象者となる条件などを研究開始前に登録し、準備中、実施中、終了後の研究を公開する「臨床試験登録システム」が運用されています。

現在、3つのシステムがあり（一括検索サイト<https://rctportal.niph.go.jp/>）、これらは誰でも閲覧することができます。

研究の情報を登録・公開することで、次のような利点があります。

- 臨床研究の実施状況や結果を知ることができる
- 不必要な研究の重複を避けることができる
- 期待された結果が出ていなくても、全ての結果が公表されるため、臨床研究の成果の正しい評価ができる
- 患者さんに対して、研究参加につながる情報提供となる

このシステムにより、研究に協力くださった方はもちろん、社会の臨床研究に対する信頼と期待に応えることを目指しています。



## 準個室（2床室）の新設について

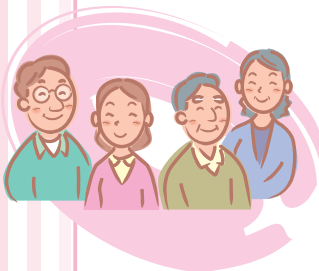
5A病棟

平成28年12月より、5A病棟に準個室を2室（4床）新設致しました。準個室とは、プライバシーの確保に配慮し、病室に間仕切り収納家具やパネルを設置した病室です。

室料：2,160円／日

### 標準設備

- ・テレビ } (プライベート式)
- ・冷蔵庫 }
- ・クローゼット
- ・机、イス
- ・スリーパーソファ
- ・チェスト
- ・洗面台



4人部屋として使用していた病室を2人部屋にしているので、広々とした空間です。

ご家族の方もスリーパーソファでお休みいただけます。

## イトインコーナーを開設しました

病院管理課

平成29年1月4日より、病院1階の院内図書室横に「イトインコーナー」を開設しました。テーブルと椅子を設置しています。待ち時間等を利用して、ご家族やお仲間との会話を楽しんだり軽食をとるなど、思い思いにくつろげる空間となっております。どなたでも、いつでもご利用いただけます。

また、コーナー内には、本院の取り組みやトピック等を発信している「滋賀医大病院ニュース」や各医療機関のご案内など、各種広報誌のラックを置きましたので、ご自由にご覧ください。ごみは放置せず、お近くのごみ箱へお願いします。皆さんが気持ちよく利用できるようご協力をお願いいたします。



### 滋賀医科大学医学部附属病院 理念

#### 「信頼と満足を追求する『全人的医療』」

滋賀医大病院ニュース第52号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

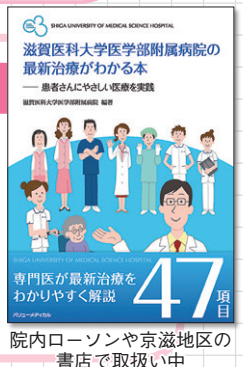
TEL：077(548)2012(企画(IR担当)課)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。



### ●理念を実現するための 基本方針

- 患者さんと共に歩む医療を実践します
- 信頼・安心・満足を提供する病院を目指します
- あたたかい心で質の高い医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 先進的で高度な医療を推進します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します



院内ローンや京滋地区の書店で取扱い中